

## ○平成21年度の砂防事業・地すべり対策事業

### 砂防対策事業

#### ●重荒廃地域等からの土砂流出防止

天竜川上流域は、中央・南アルプスの広大な荒廃地を源流とし、とりわけ荒廃の著しい重荒廃地を376km<sup>2</sup>も抱え各所に大崩壊地が発達している。

そのため、ここから生産される多量の土砂を抑制・調節するため砂防施設の整備を推進するものとし、荒川大崩壊地を抱える小渋川上流域に七釜第2砂防えん堤の整備を進める。また、中田切川上流域において中田切第4砂防えん堤の整備を進める。



荒川大崩壊地

#### ●土石流危険渓流からの土砂流出防止

住民の生命・財産が危険にさらされている土石流危険渓流が、天竜川上流域には未だに数多く残されており、これら土石流危険渓流における砂防施設の整備を推進する。平成19年7月に土石流が発生した遠山川右支川伊ノ木沢において、伊ノ木沢砂防えん堤を整備する他、太田切川左支川黒川において黒川第4砂防えん堤、中田切川において中田切第4砂防えん堤等の整備を進める。

#### ●地域活性化への寄与

天竜川上流域では、地域の活性化を図るため、いくつもの個性あふれたプロジェクトが策定され推進されている。このようなプロジェクトと整合を図りつつ砂防事業を展開することにより地域の活性化を支援することを目的として、小渋川流域での「水辺の楽校プロジェクト」支援のための大河原床固工群、太田切川流域での「水辺のプラザ」支援のための太田切床固工群等の整備を進める。



大河原床固工群

#### ●扇状地頂部での土砂氾濫防止

扇状地頂部での土砂氾濫を防止するための根幹施設として、太田切川・与田切川・片桐松川で床固工群の整備を進める。

●流砂系における総合土砂管理の取り組み

総合土砂管理への取り組みとして、与田切川を中心に土砂移動現象の調査・解析を行うこととし、オンボロ沢において渓岸渓床浸食、黒覆沢において斜面崩壊を対象に、生産土砂量の推定精度の向上を目的にモニタリング調査を行うと共に坊主平えん堤にて流砂観測施設による観測を行う。



流砂観測施設（与田切川）

●駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム構想の実現に向けて

駒ヶ根高原において、地域社会における砂防との関わりについて、地域住民、小中学生、観光客等が楽しく体験学習できる駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム構想が策定されたことから、その環境の整備を駒ヶ根市、宮田村と協同して進めている。



駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム(太田切川)

●県・市町村との連携

平成18年7月の豪雨災害を教訓に、同年度より県や地元市町村との相互連携や地域支援のあり方について検討会を立ち上げ、上伊那地区をモデル地区として地域連携マニュアルの作成及び防災協定の締結を進めるほか、市町村や県等と合同の防災訓練を各地で実施している。



大規模土砂災害対策検討会

●自然環境及び景観への配慮

流域における良好な自然環境を保全し、自然景観と調和した砂防施設の整備を図るとともに、小渋川上流部にある「上蔵砂防えん堤」(昭和29年完成)が歴史的・景観的に評価できることから、国の登録有形文化財としての登録作業を進めている。



上蔵砂防えん堤（小渋川）